

令和5年度 ナラティブと質的研究分科会活動報告

代表 やまだようこ

報告 浦田 悠・神崎真実

1. 集会等の活動

以下の活動を当研究分科会の主催および共催で開催した。

※登壇者の所属等はイベント当時のものである。企画趣旨、概要等は、企画時の内容をそのまま掲載している。

■ ナラティブと質的研究会「私をつつむ母なるもの（やまだようこ著作集第6巻）」を巡って

- 日時：2023年9月23日（土）13時～18時
- 場所：オンライン（Zoom）
- 司 会：浦田 悠（大阪大学）
- 講 演：やまだようこ（京都大学名誉教授）
- コメント：徳田治子（高千穂大学）・荘島幸子（帝京平成大学）・
家島明彦（大阪大学）・横山草介（東京都市大学）
- 概要

やまだようこ著作集第6巻『私をつつむ母なるもの—多文化の「人と人の関係」イメージ—』（新曜社、2023年刊）は、ビジュアル・ナラティブ研究の先駆となった1988年刊の「私をつつむ母なるもの—イメージ画にみる日本文化の心理」に加えて、日本、

アメリカ、イギリス、韓国の多文化データを加えてビジュアル・ライフストーリーを分析した本です。この本を媒介にして、さまざまな観点から語り合い、「共同生成」の渦をつくりましょう。最初に講演をしますので、本を読んでいない方の参加も歓迎です。

■ 日本発達心理学会第 34 回大会関連団体企画シンポジウム「ビジュアル・ナラティブとしての『ふるさと絵屏風』」

- 日時：2023 年 3 月 3 日（木）15 時～17 時
- 場所：立命館大学いばらきキャンパス
- 司会者，指定討論者：家島 明彦(大阪大学)
- 話題提供者：上田 洋平#(滋賀県立大学)
- 指定討論者：やまだ ようこ(立命館大学)・横山 草介(東京都市大学)・土元 哲平(日本学術振興会，大阪大学)・保坂 裕子(兵庫県立大学)
- 概要

ビジュアル・ナラティブとは、視覚イメージによるもの語りである。ビジュアル・ナラティブは、狭義の言語よりも共感的コミュニケーションに優れ、従来の対話的二項関係に対して並ぶ関係の三項関係をつくることで関係性を変革する（やまだ，2018）。本シンポジウムでは、独自に「ふるさと絵屏風」を開発し、ユニークな地

域文化・世代間伝達・教育活動などを多面的に実践してこられた上田先生をお迎えして、開発経緯、実践内容、今後の展開などについて話題提供いただく。「ふるさと絵屏風」は、私たちが重視してきたビジュアルを媒介にした三項関係やビジュアル・ナラティブの共同生成という観点や、多世代をむすぶ生涯発達やキャリア教育という観点からみて大変興味深い。指定討論の5名は、実際に現地に出かけ、琵琶湖をとりまく近江という地域を肌で実感し、そこで生きる地元の人々と交流し、「ふるさと絵屏風」の実践に参加した。ビジュアル・ナラティブとしての「ふるさと絵屏風」の多様な可能性について、フロアの参加者とともに議論してみたい。

2. 分科会関連団体の活動

■ 日本質的心理学会第20回大会会員企画シンポジウム

- 日時：2023年11月5日（日）13時～15時
- 場所：立命館大学いばらきキャンパス
 - 企画：横山草介・家島明彦・やまだようこ
 - 司会：横山草介(東京都市大学 人間科学部)・家島明彦(大阪大学)
 - 話題提供：やまだようこ(立命館大学 OIC 総合研究機構)・ふくだぺろ(立命館大学 先端総合学術研究科)
 - 指定討論：南博文(筑紫女学園大学)・指定討論：高田明(京都大学)

- 企画趣旨

学問においても芸術においても、新しい発想や表現を生み出すときは、通常のことばによって記述される概念や定型的な見方から脱出する必要がある。そのとき、自由にイメージを遊ばせ飛躍させ、新しい意味のむすびつきをつくる上で、ビジュアル・イメージは重要な働きをする。私たちは、そのような観点から、ビジュアル・ナラティブのシンポを長年にわたって企画してきた。

今回は、ビジュアル・ナラティブと詩の共通の基盤としての「ポエティック・リアリティ(詩的現実)」という新しい概念を提出してみたい。ビジュアル・ナラティブは、詩作のプロセス、生き生きした新たなイメージや新鮮なことばのむすびつきが生成されるプロセスと似ている。また、ビジュアルも詩も、ことばにならない「イメージ」や「メタファー」が重要な役割をもつ。そして、ビジュアルも詩も、わずかな形や色彩やことばによって、相手の身体感覚や感性に生き生きと伝わり、相手を深く揺り動かす大きな力をもつ。

では、ビジュアル・ナラティブと詩に共通すると考えられる「詩的リアリティ」とは何だろうか、なぜ心理学において、「詩的リアリティ」を問う必要があるのだろうか？今回はその基本的なものの見方を提示するところから考えていきたい。

■ 分科会関連研究会「ビジュアル・ナラティブ研究会（はなさろん）」

- 本分科会の関連研究会として、「ビジュアル・ナラティブ研究会（はなさろん）」を立ち上げ、ビジュアル・ナラティブに関連する研究データを持ち寄って議論する場を2020年11月より月1回実施している。

3. メーリングリストによる研究交流

研究会専用のメーリングリスト（narrative123@googlegroups.com）を利用して、会員の交流と情報交換・情報発信を行った。現在（2024年5月14日時点）までに会員（ML登録者数）は340名となり、全国組織として学際的なメンバーで活発な情報交換を行った。

4. ウェブサイトおよび各種MLによる情報発信

研究会の概要や入会に関する情報については、代表のやまだようこのウェブサイト（2020年度より <https://yoko-yamada.jimdosite.com/>）に研究会のページを作成し、発信している。

また、研究会開催の情報については、上記メーリングリストの他、各種関連学会でのMLやウェブページでの広報を行っている。